

平成28年度 広島県特別支援学校教育研究会  
第2グループ

「障害のある幼児児童生徒に対する  
キャリア教育の実践について」

指導助言者	広島県立教育センター	指導主事	濱崎 奈緒
チーフ	広島県立福山北特別支援学校	教頭	松本 洋文
サブチーフ	広島県立廿日市特別支援学校	高等部主事	池田 勝己
研究スタッフ	広島県立尾道特別支援学校	教諭	道田 正和
	広島県立西条特別支援学校	教諭	松田 さゆり
	広島県立福山北特別支援学校	教諭	中啓 大輔
	広島県立呉特別支援学校	教諭	花岡 加奈
	広島県立庄原特別支援学校	教諭	村山 香
	広島県立広島北特別支援学校	教諭	久坂 実由記
	広島県立黒瀬特別支援学校	教諭	田中 里枝子
	広島県立呉南特別支援学校	教諭	定本 有記
	広島市立広島特別支援学校	教諭	長島 由香

はじめに

キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、  
自分らしい生き方を実践していく過程



参考：中央教育審議会（平成23年）：『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』

研究の目的

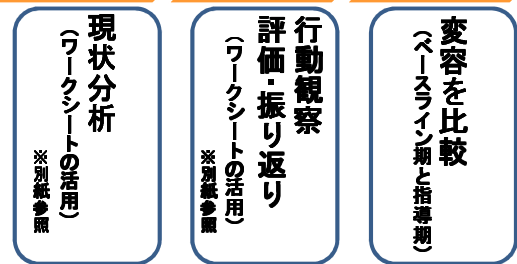
実践研究を通して、キャリア発達を  
促すための具体的な方策を提案する。

仮説

児童生徒が、自身の「振り返り」を踏まえた目標設定を  
することで、キャリア発達を  
促すことができるだろう。

研究方法

方法1 → 方法2 → 検証



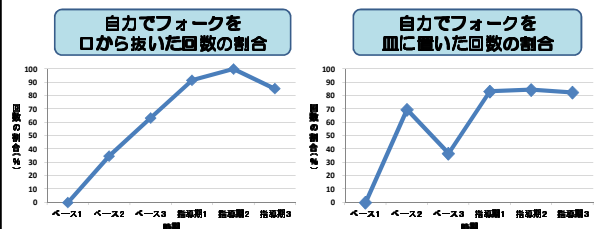
実践例(小学部)

小学部第2学年 日常生活の指導  
対象児童：知的障害と肢体不自由の重複障害  
授業内容：給食

キャリア発達を促す「振り返り」の工夫

- 1 付けたい力  
➡ 自力で食事をする力を身に付け、意思表示、  
選択、自分にできるという自信へとつなげる。
- 2 「振り返り」場面の設定及び評価方法  
➡ 全体の食事回数、自力でフォークを口から抜いた  
回数、自力でフォークを皿に置いた回数の記録

ワークシートの活用による児童の変容



結果

- ◆フォークを口から抜く動作が定着した。
- ◆フォークを自ら皿に戻す姿も見られ始めた。

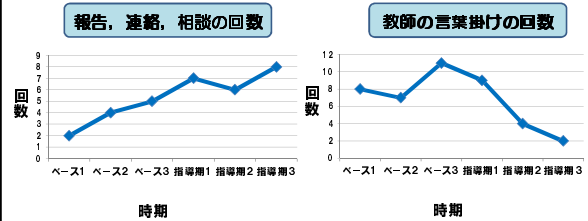
### 実践例(中学部)

中学部第1学年 作業学習  
 対象生徒：知的障害  
 授業内容：清掃

### キャリア発達を促す「振り返り」の工夫

- 1 付けたい力  
 ➡ 報告、連絡、相談ができる。伝えたい相手を意識し、自分のことばかりではなく、友だちと協力できる。
- 2 「振り返り」場面の設定及び評価方法  
 ➡ 課題解決の過程を評価、報告・連絡・相談の場面や機会を多く設定

### ワークシートの活用による生徒の変容



### 結果

- ◆ 主体的な行動や報告、連絡、相談をする回数が増えた。

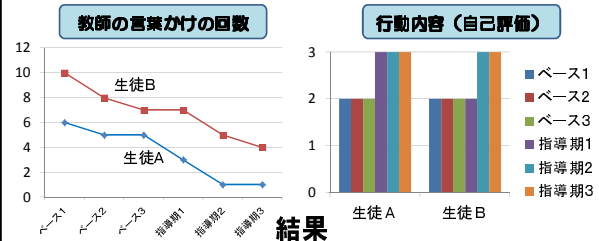
### 実践例(高等部)

高等部第2学年 生活単元学習  
 対象生徒：知的障害と肢体不自由の重複障害  
 授業内容：掃除

### キャリア発達を促す「振り返り」の工夫

- 1 付けたい力  
 ➡ 課題解決のために自ら判断し目標を決め、結果に対して自ら振り返り、評価できる。
- 2 「振り返り」場面の設定及び評価方法  
 ➡ 行動内容（目標設定・自己評価）、表出内容、言葉かけの回数、継続して取り組んだ時間、発言記録

### ワークシートの活用による生徒の変容



### 結果

- ◆ 「おそうじお願いカード」の内容を確認し、自ら目標設定をしたことで、振り返りによる自己評価や次時の目標内容が、向上を意識したものとなった。
- ◆ 依頼主に評価されることで主体的に問題解決のための手だてを考え、行動する姿が見られるようになった。

### 考察

- ◆ 動作の終始を明確に伝え、動作後すぐに振り返りをする事で、「自分でやってみよう。」という**主体的な行動**を引き出せたのではないか。
- ◆ 作業日誌やチェック表を自身で記録し続けることで、**意識**や行動の変化を実感することができたのではないか。
- ◆ 人の役に立つ喜びを感じ、「ようし!」という次への**意欲**につながったのではないか。



児童生徒の「**こころ**」の動きを捉え、内面へ働きかける事が重要なのでは？

### 成果

「振り返り」を意識した授業づくりによって

- 目標達成への意欲を引き出すことができた。
- 「振り返り」によって、他者と関わる場面が生まれ、自分自身を知ることができた。
- 自ら変わろうとする意欲や意識の変化が見られた。➡「主体的な学習」へ

### 今後の課題

- 効果的な評価の方法や場面についての検討
- 児童生徒の実態に合うワークシートの改善